

平成 29年度

全国学力・学習状況調査 指宿市結果報告

主として「知識」を問う基礎・基本の問題及び、応用力を問う「活用」に関する問題に依然として課題あり

文部科学省は、全国の小・中学生の学力や学習状況を把握するために、小学校6年生と中学校3年生を対象とした全国学力・学習状況調査を4月に実施しています。指宿市では、平成29年度の調査に全小・中学校が参加しました。教育委員会及び市内の各学校では、この結果をもとに実態を把握し、学力向上に向けた取組を充実していきたいと考えています。

なお、この調査は小学校6年生と中学校3年生の2教科のみの実施であることから、市内の全児童生徒の学力を示しているというわけではありません。全体的な傾向と課題を分析し、指導に生かせる内容であることを御理解ください。

学力調査 (国語A, 算数・数学A) (国語B, 算数・数学B)

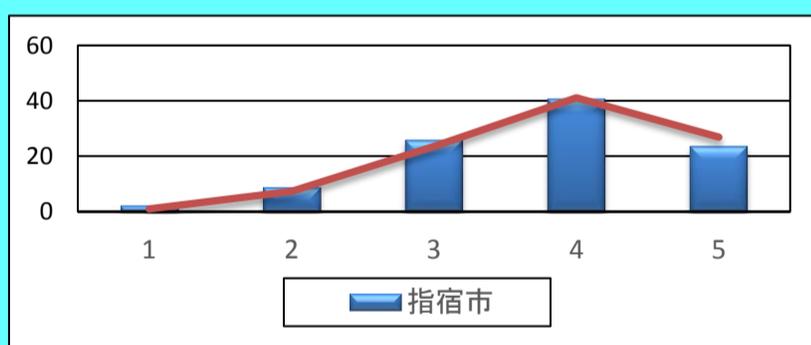
A問題 … 基礎・基本の問題で、主として「知識」を問う問題

B問題 … 基礎・基本の力をもとにした応用力を問う、主として「活用」に関する問題

学習状況調査

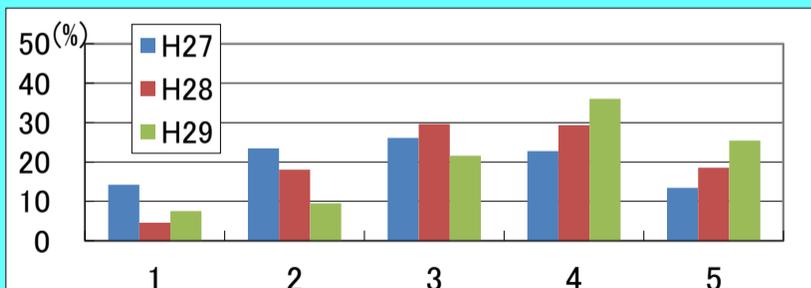
学習意欲, 学習方法, 学習環境, 生活の諸側面などに関する選択形式の質問調査

《結果及び改善策の見方について》



市全体の平均通過率を5段階に分け、それぞれの段階の集団の割合を棒グラフに表しました。折れ線グラフは、全国の平均通過率を表しています。

段階	通過率
1	0~20未満
2	20~40未満
3	40~60未満
4	60~80未満
5	80~100



H27~29の市全体の平均通過率が比較できるように、5段階に分け、それぞれの段階の集団の割合を棒グラフに表しています。

段階	通過率
1	0~20未満
2	20~40未満
3	40~60未満
4	60~80未満
5	80~100

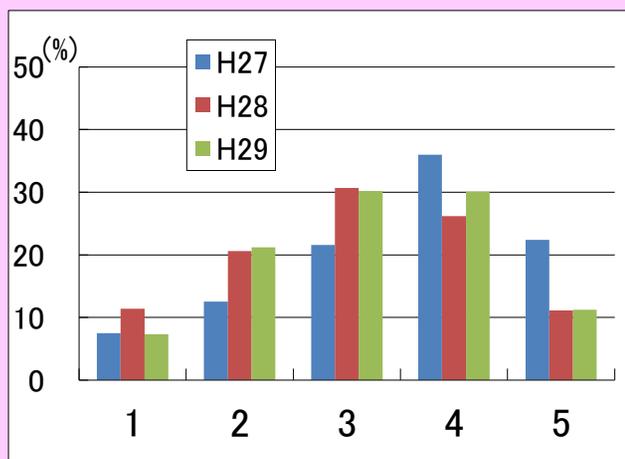
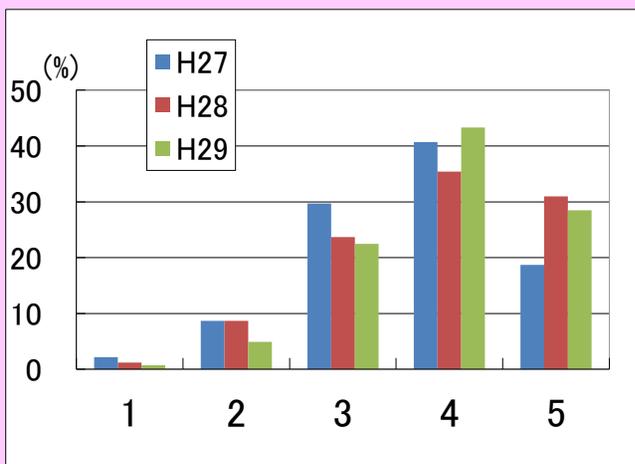
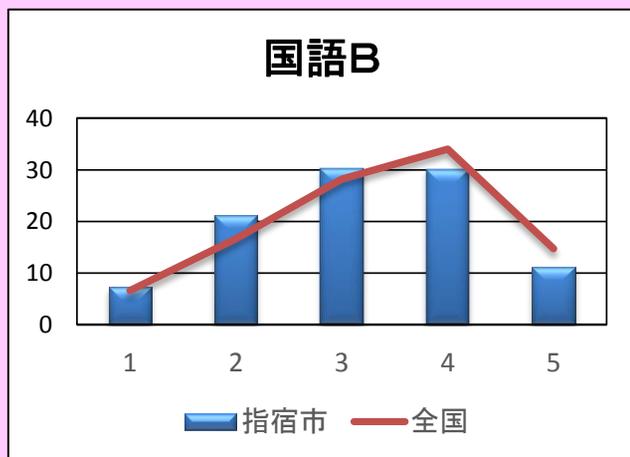
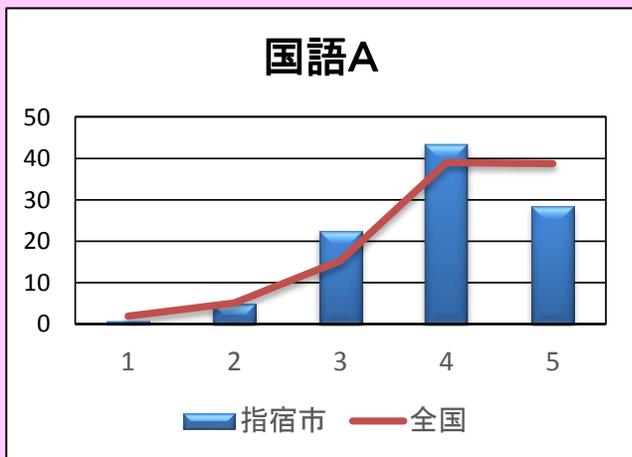
- ◆ 傾向
- つまづいている設問及び課題

- 改善策

グラフについての分析や傾向を簡潔に述べています。また、該当教科でつまづきのある設問を挙げ、課題を示しています。今後の改善策を、小中学校のそれぞれの最後に述べています。

学力調査の結果 《小学校》

国語



◆国語Aにおいては、4段階と5段階の児童が合わせて約70%ですが、5段階の児童の割合が少なく、中位層を伸ばしていく指導が必要です。

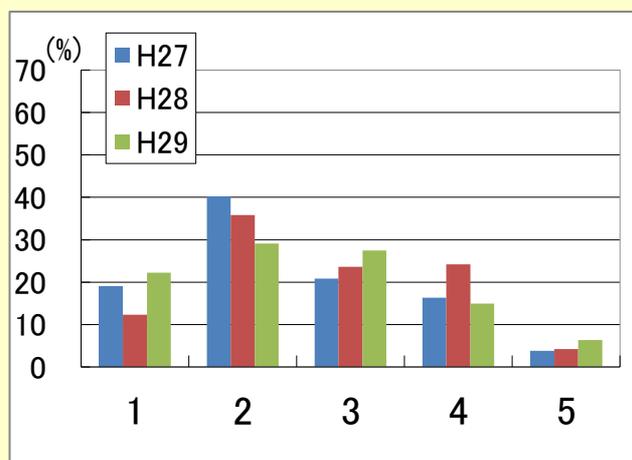
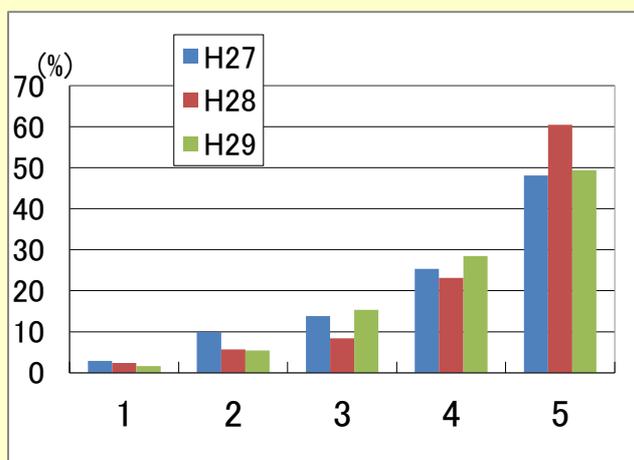
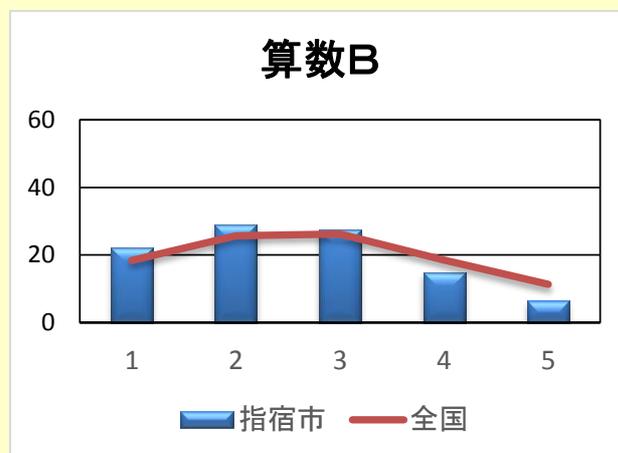
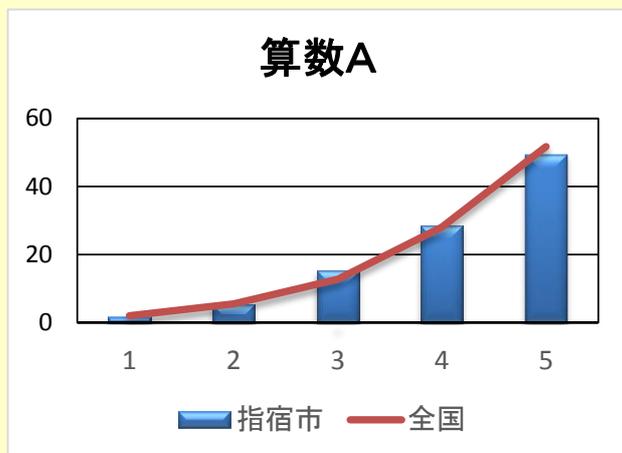
◆国語Bでは、3段階以下の児童が約60%と、下位層が多く、「知識」を「活用」する力を身に付けていく指導が必要です。

●目的や意図に応じて、自分の考えを理由を明確にしてまとめたり、発表したりすることに課題があります。

●目的や意図に応じて、話の構成を工夫して、適切な言葉遣いで話すことに課題があります。

学力調査の結果 《小学校》

算 数



◆5段階の分布では、算数Aは4・5段階の児童が合わせて77%で、おおむね基礎・基本が定着しつつあります。算数Bでは、1・2段階の児童が合わせて51%で下位層が多く、基礎・基本といった「知識」を「活用」する力を身に付けていくことが課題になっています。

●問題を読み取って必要な数値を選び、その求め方と答えを記述したり、きまりを見付け、その理由を記述したりすることに課題があります。

●表やグラフから読み取ることや、解答した理由を言葉や式を使って記述することに課題があります。

学力調査の改善策 《小学校》

国語

●自分の考えをしっかりと見せるとともに、その理由を明確にして発表する力や、友だちに伝え合う力を身に付けさせる必要があります。

そのために、自分の考えや理由を文章にまとめたり、まとめたことをペアやグループ・全体で発表し合ったりする学習活動を積極的に取り入れます。

算数

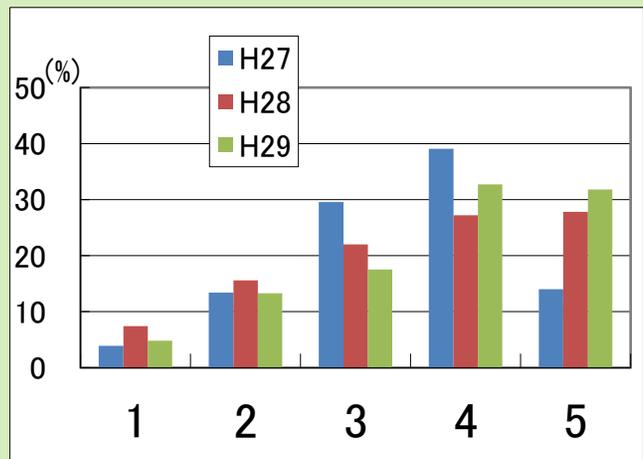
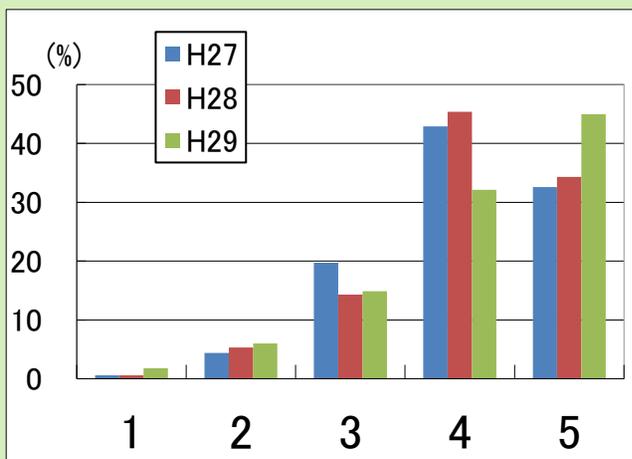
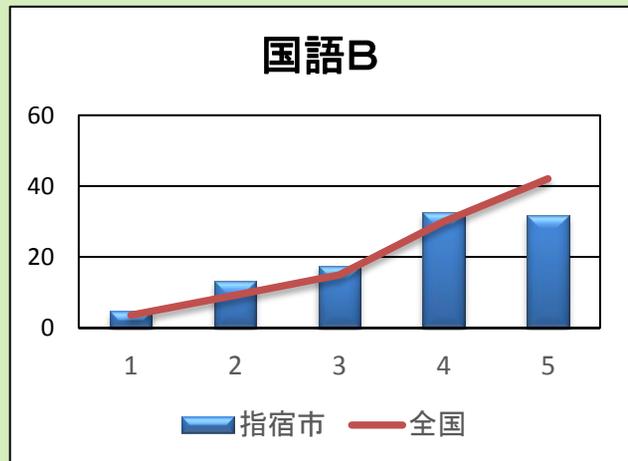
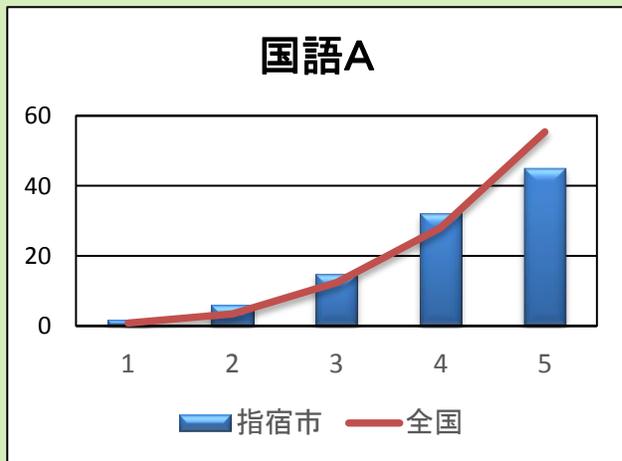
●学習した内容を日常生活の中で活用することができるような機会をもたせる必要があります。

また、日常生活の事象を表やグラフで表すよさを実感させたり、解決したい問題について、資料収集や分類整理し表やグラフに表すなどの学習が必要です。

そのために、日常生活の場面から問題を取り上げ、学習内容と結びつけて考え、解決する学習活動を積極的に取り入れます。

学力調査の結果 《中学校》

国 語



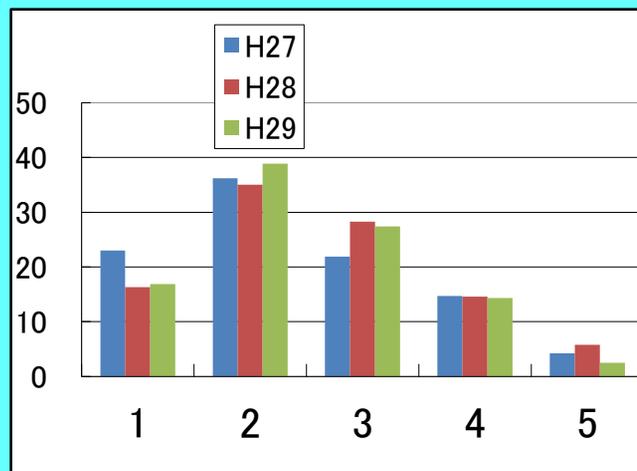
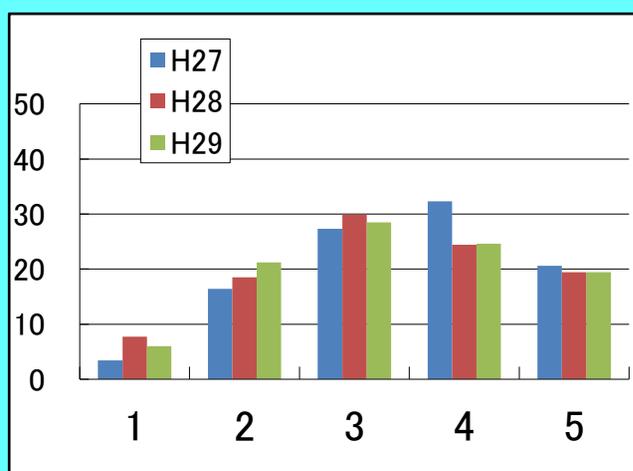
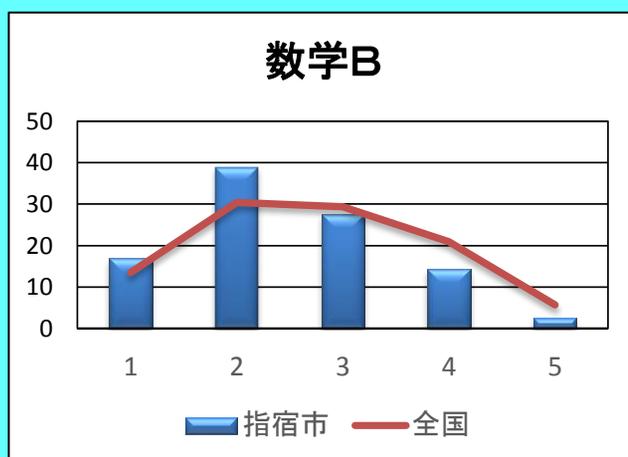
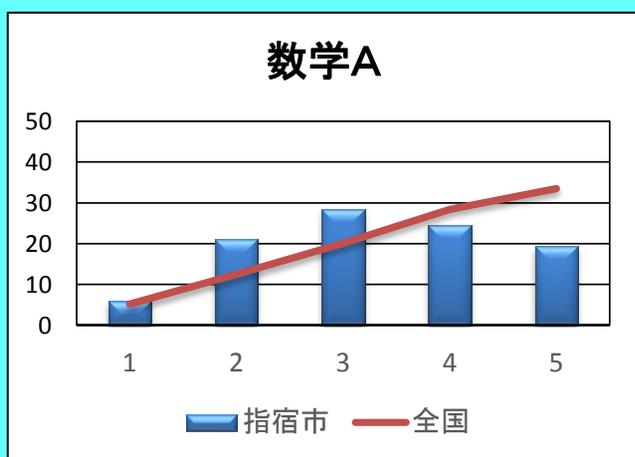
◆5段階の分布では、国語Aは、4・5段階の生徒が77%で、基礎・基本の定着は図られつつあります。国語Bは4・5段階の生徒が64%であり、上位層が少なく、下位層が多い状況です。このことから、基礎・基本といった「知識」を「活用」する力を身に付けていくことが課題となっています。

●楷書や行書の特徴や違い、古典の様々な種類を理解することに課題があります。

●自分の考えを具体的に書いたり、様々な情報の中から必要な情報を取り出したりすることに課題があります。

学力調査の結果 《中学校》

数 学



◆数学Aにおいては、3段階の生徒が最多となっており、基礎・基本の定着が課題となっています。

◆数学Bにおいては、1・2段階で合わせて55%で、基礎・基本といった知識を「活用」する力を身に付けていくことが課題となっています。

●数量や図形の領域における基礎的な数学的事象における意味理解に課題があります。

●導き出した答えを数学的に表現したり、説明したりすることに課題があります。

学力調査の改善策 《中学校》

国語

- 自分の考えを、根拠を明確にして表現する力や、様々な情報の中から必要な情報を集めたり取り出したりして、それを基に表現する力を高める必要があります。
- そのために、自分の考えを根拠を基にして具体的に記述したり、取捨選択した情報をグループや学級全体で説明し合うことで、答えに迫ることができるような学習活動を積極的に取り入れます。

数学

- 正の数負の数、文字式、等式変形、方程式、図形、関数、確率などの基礎・基本を習得させる必要があります。
また、導き出した答えについて、説明できるようにする必要があります。
- そのために、自分の考えをグループや学級全体で、数学的に説明し合うなどの表現活動を通して、相互に学び合

学習状況調査の結果及び分析

「規則正しい生活
をしています」

「将来の夢や目標をもっていますか？」

小学校、中学校ともに夢や目標をもっている子どもは、全国よりも多いです。

夢や目標は、学習意欲の原動力になります。日頃から夢や目標について話題にし、意識することが大切です。



朝食や起床・就寝時刻など、規則正しい生活をしている子供は全国平均並みでした。

しかし、生活リズムが不規則な生徒も見られます。

心身の健康は、学習の基本です。しっかり寝て、食べて、規則正しい生活を心がけましょう。

「地域の行事に参加していますか？」

小学校、中学校ともに地域行事によく参加しています。体験的な活動を通して大切なことをたくさん学んでいます。



「スマートフォンやインターネットなどに使う時間はどうでしょうか？」



小学校、中学校とも、スマートフォンでゲームやインターネットをする時間は、県や全国より少ない結果です。しかし、年々、時間が増えていく傾向にあります。

まずは、家での時間の使い方について家庭で話し合ひましょう。そして、家庭学習の計画を立てて、学習時間を確保するようにしましょう。

「家庭学習の状況はどうでしょうか？」

学校の宿題をする子どもは、小学校、中学校ともに増えています。「復習」には小中学校ともによく取り組んでいます。しかし、「予習」に関しては取組が少ないようです。また、与えられた宿題だけではなく、学校で学習したことから興味・関心を広げ、自分から楽しんで学習に取り組むようにしましょう。

